

令和4年度第7回「しがwebアンケートプラス調査」

(県内向け調査)の結果について

1 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の個人
- (2) 標本数 500 人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査
- (4) 調査期間 令和5年3月7日(火)～ 3月9日(木)
- (5) 調査会社 株式会社クロス・マーケティング

3 調査項目

生活習慣の変化に関する意識調査 ～コロナ禍を経て～

4 主な調査結果

Q1 あなたは、どのような仕事をしていますか。(答えは1つ)

1 位:会社勤務(一般社員)	21.4%
2 位:専業主婦・主夫	18.0%
3 位:パート・アルバイト	15.8%
4 位:無職	15.2%
5 位:派遣職員・契約社員	6.4%
6 位:会社勤務(管理職)	5.0%
7 位:専門職(医療・介護・保育等)	4.0%
8 位:公務員・教員・団体職員	3.6%
9 位:自営業	3.4%
学生	
11 位:会社勤務(経営者・役員)	1.6%
12 位:その他	0.8%
13 位:SOHO	0.6%
専門職(弁護士・税理士等)	
15 位:専門職(その他)	0.2%
16 位:農林漁業	0.0%

・回答を寄せた人で、一番多かったのは、「会社勤務(一般社員)」の21.4%、次いで「専業主婦・主夫」の18.0%、「パート・アルバイト」の15.8%と続く。

Q2 コロナ禍前と比較して、あなたの他人との対面でのコミュニケーションの機会は、どのように変化しましたか。(Web 会議等も含む)(答えは1つ)

1 位:変わらない	46.6%
2 位:少し減った	29.6%
3 位:かなり減った	19.2%
4 位:少し増えた	3.6%
5 位:かなり増えた	1.0%

- ・「変わらない」と回答した人が最も多く、46.6%となっている。
- ・「少し減った」の 29.6%、「かなり減った」の 19.2%を合わせると、減ったと回答した人は48.8%と半数近くに上るが、この中には感染防止の観点から自発的に敬遠した人もいるものと推測される。

Q3 あなたは、コロナ禍で何に不安を感じましたか。(答えはいくつでも)

1 位:健康	52.4%
2 位:漠然とした先行き不安	31.6%
3 位:医療	29.0%
4 位:特になし	23.6%
5 位:家計	22.8%
6 位:人間関係	17.4%
7 位:就労	14.0%
8 位:教育	5.2%
9 位:その他	0.2%

- ・「健康」と回答した人が最も多く 52.4%となっており、次いで「漠然とした先行き不安」の31.6%、「医療」の 29.0%などとなっており、未知の感染症の拡大が人々に与えるものとして、感染しないかどうか、この先どうなるのか、きちんと医療が受けられるのかなどといったことに不安を感じる人が多いことがうかがえる。
- ・「家計」の 22.8%と「就労」の 14.0%を合わせると36.8%となっており、コロナ禍が相当数の人に対し、仕事に関する不安を与え、家計のやりくりにも影響を与えていることがうかがえる。
- ・ほとんど全ての項目(「特になし」を除く)において、女性が男性よりも不安感を抱く人が多くなっている。

Q4 コロナ禍前と比較して、あなたの体調はどのように変化しましたか。(新型コロナウイルスの感染による症状や、その後遺症は除きます)(答えはいくつでも)

1 位:特になし	60.2%
2 位:イライラ感	16.2%
3 位:視力の低下	15.2%
4 位:肩こり	14.8%
5 位:体重の増減	13.8%
6 位:腰痛	12.0%

7 位:不眠	8.6%
8 位:その他	0.4%

- ・「特になし」と回答した人は 60.2%と最も多くなっているが、逆に、40%近くの人には、体調に何らかの変化を来していることがうかがえる。
- ・体調の変化があると回答した人の中で一番多かったのは「イライラ感」の 16.2%、次いで「視力の低下」の 15.2%、「肩こり」の 14.8%となどとなっている。
- ・全ての症状について、男性よりも女性の方が体調の変化を自覚している人が多く、「イライラ感」については男性の 11.6%に対し、女性が 20.8%、「体重の増減」については男性の 10.4%に対し、女性が 17.2%となっており、これらの項目については、特に男女差が大きい。

Q5 コロナ禍前と比較して、あなたが身体を動かす機会はどのように変化しましたか。(答えは1つ)

1 位:変わらない	56.8%
2 位:少し減った	23.2%
3 位:かなり減った	11.0%
4 位:少し増えた	7.2%
5 位:かなり増えた	1.8%

- ・「変わらない」と回答した人が最も多く、56.8%となっている。
- ・「少し減った」の 23.2%と「かなり減った」の 11.0%を合わせると、34.2%の人が、運動の機会が減少したと回答し、感染防止の観点から戸外での運動を控えていることがうかがえる。
- ・特に「かなり減った」については、男性の 7.6%に対し、女性は 14.4%となっており、男女差が大きい。

Q6 コロナ禍前と比較して、あなたの食事の摂り方はどのように変化しましたか。(答えはいくつでも)

1 位:特になし	60.0%
2 位:家での調理が増えた	30.8%
3 位:テイクアウトやデリバリーが増えた (ファストフードだけでなく、惣菜なども含む)	11.6%
4 位:外食が増えた	2.8%
5 位:その他	0.8%

- ・「特になし」と回答した人が最も多く、60.0%となっている。
- ・「家での調理が増えた」の 30.8%と「テイクアウトやデリバリーが増えた」の 11.6%を合わせると、42.4%の人が自宅等で食事を済ます頻度が増えたことがうかがえる。
- ・なお、「家での調理が増えた」については、男性が 24.4%に対し、女性では 37.2%となっており、特に女性にとっては家で調理する頻度や時間が増えていることがうかがえる。

Q7 あなたは、コロナ禍前と比較して、食生活において、どのようなことを意識するようになりましたか。(答えはいくつでも)

1 位:特になし	65.8%
----------	-------

2 位:摂取カロリー	13.0%
3 位:繊維質(野菜など)の摂取量	11.4%
4 位:塩分の摂取量	10.4%
5 位:たんぱく質の摂取量	9.2%
6 位:糖分の摂取量	8.8%
間食の回数	
8 位:脂肪分の摂取量	8.2%
9 位:その他	0.4%

・「特になし」と回答した人が最も多く、65.8%となっている。

・食生活において意識する項目として一番多かったのは、「摂取カロリー」の 13.0%、次いで「繊維質(野菜など)の摂取量」の 11.4%、「塩分の摂取量」の 10.4%などとなっているが、突出して多い項目はなかった。

Q8 コロナ禍前と比較して、あなたの喫煙の量は変化しましたか。喫煙しない方は、受動喫煙に遭う機会に置き換えてお答えください。(自宅等での喫煙や受動喫煙も含む)(答えは1つ)

1 位:元々受動喫煙に遭わない	63.0%
2 位:変わらない	23.2%
3 位:少し減った	3.8%
4 位:少し増えた	3.6%
5 位:喫煙をやめた	2.8%
6 位:かなり減った	1.8%
7 位:かなり増えた	1.4%
8 位:新たに喫煙するようになった	0.4%

・喫煙習慣がなく「元々受動喫煙に遭わない」と回答した人は 63.0%と最も多く、次いで「変わらない」の 23.2%となっており、周囲や自身の喫煙習慣にあまり変化のない人が相当数に上ることがうかがえる。

・喫煙量や受動喫煙について、変化があったと回答した人については、合わせて 13.8%とわずかであった。

Q9 コロナ禍前と比較して、あなたの飲酒の量は変化しましたか。(自宅等での飲酒も含む)(答えは1つ)

1 位:変わらない	40.2%
2 位:元々飲酒せず、現在もしない	34.7%
3 位:少し増えた	7.1%
4 位:少し減った	6.3%
5 位:かなり減った	4.8%
6 位:飲酒をやめた	3.1%
7 位:新たに飲酒するようになった	2.3%
8 位:かなり増えた	1.5%

・「変わらない」と回答した人は 40.2%と最も多くなっており、次いで「元々飲酒せず、現在もし

ない」の 34.7%となっており、飲酒習慣にあまり変化のない人が相当数に上ることがうかがえる。

・飲酒量に変化のあった人は、合わせて25.1%となっているが、増減の状況は様々である。

Q10 あなたは、コロナ禍となってから、健康診断を受診しましたか。(答えは1つ)

1 位:した	67.6%
2 位:していない	32.4%

Q11 あなたは、コロナ禍の下でも、心身ともに健康を維持するためには、こういった取組が必要だと思われますか。(自由記述)

・500人全ての人にご回答いただき、その主なものは次のとおりである。

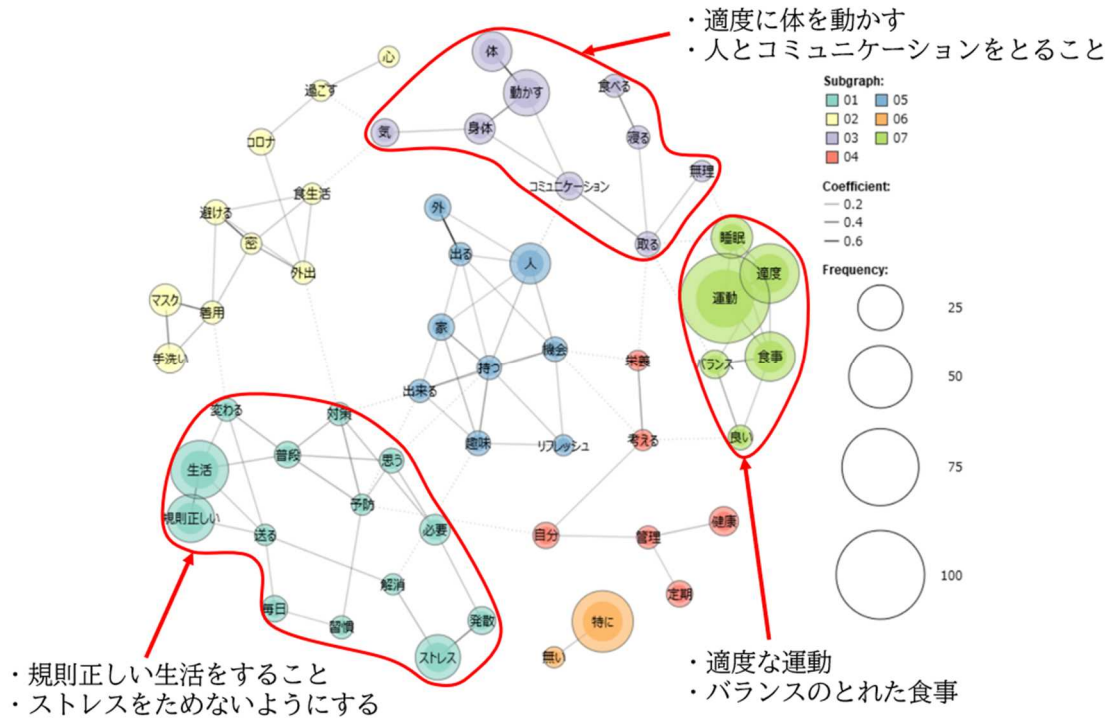
・適度な運動	145人
・特になし	82人
・わからない	39人
・規則正しい生活	28人
・ストレスを溜めない	25人
・普段どおりの生活	21人

・「適度な運動」と回答した人が 145 人と最も多く、「規則正しい生活」、「ストレスを溜めない」、「普段どおりの生活」もそれぞれ 20~30 人程度となっており、コロナ禍に限らず、健全な生活を送るために注意すべき点を挙げる人が多いことがうかがえる。

・なお、40 人近くの方が「わからない」と回答し、未知の感染症が蔓延する中で、どうすればよいのか迷う人も一定数に上るものと推測される。

・自由記述でいただいたご意見の要約として共起ネットワークグラフを作成した。

共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現(共起)するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード(点)と関連性(線)から成るネットワークグラフとして可視化したものである。



※語と語が結ばれている線は、共起性や関連性を表している。
 ※円の大きさは頻出キーワードの出現頻度を表している。